

令和7年9月1日

関係機関・団体の長 様

新潟県病虫害防除所長

新潟県病虫害発生予察情報・予報第7号の送付について

このことについて、別添のとおり発表しましたので、業務の参考としてください。

なお、この情報は、「新潟県病虫害防除所」のホームページでも閲覧できますので、適宜御活用ください。

また、次回の予報第8号（10月の発生予想）の発表日は、10月1日を予定しています。

新潟県病虫害防除所 電 話：0258-35-0867 F A X：0258-35-7445

令和7年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第7号
(9月の発生予想)

令和7年9月1日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量： 平年比 発生程度： 発生時期： 平年比	予報の根拠
---------------	--	-------

【大豆】

ハダニ類	量： 並	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
マメシンクイガ	量： 並	① 前年の被害子実量は平年比やや多く、越冬幼虫数及び成虫数は平年よりやや多いと推測される。(+) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。 (－)
	【防除上の留意事項】 防除適期は9月第2半句までである。前年に被害が多かったほ場で、防除未実施の場合は確実に防除を行う。	
カメムシ類	量： 並～やや多い	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。 (＋)
	【防除上の留意事項】 重点防除時期は子実肥大中期(開花期7週間後頃)までである。カメムシ類の発生が多い場合は、この頃までに防除を行う。	

【なし】

黒斑病	量： やや少ない 程度： 少発生 (発病葉率1～5%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
黒星病	量： やや少ない 程度： 少発生 (発病葉率1～5%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
	【防除上の留意事項】 ① 秋季防除は、落葉期25日前(10月中～下旬)及び落葉期10日前(10月下旬～11月中旬)に実施すると効果が高い。 ② 秋期防除では薬剤感受性の低下を防ぐため、DMI剤等の薬剤耐性のつきやすい薬剤の使用は避け、保護殺菌剤による防除を行う。 ③ 発生園では落葉は放置せず、集めて土中に埋めるか、すき込むなどして翌年の伝染源量の低減を図る。	

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--	-------

【なし】つづき

褐色斑点病 (西洋なし)	量：多い 程度：多発生 (発病葉率 16～30%)	① 8月下旬の発生量(葉)は平年比多く、罹病果も散見されている。(＋) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
【防除上の留意事項】 ① 発病果、病落果は放置せず、園外に持ち出し適切に処分する。 ② ホウキ枝などの徒長枝が多いと発生が多くなるので、随時整理する。 ③ 秋雨期は重点防除時期にあたるため、散布間隔に留意し降雨前散布を徹底する。スピードスプレーヤーによる薬剤散布は全列散布を行い、散布ムラのないようにする。園地周縁部等の薬剤のかかりにくいところは補正散布を行う。		
ナシヒメシンクイ	量：やや多い 程度：少発生 (被害果率 1～2%)	① 8月下旬のものの被害新梢は平年比やや少ない。(－) ② 地点間差が大きい、フェロモントラップの累積誘殺数及び8月の誘殺数は平年並～多い傾向。(±～＋) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
【防除上の留意事項】 ① 被害果は放置せず、園外に持ち出し適切に処分する。 ② 被害が見られる園地では、9月上旬の防除を徹底するとともに、新高、新興等の晩生品種では9月中～下旬に追加防除を実施する。薬剤防除にあたっては、農薬使用基準(収穫前日数)に十分注意する。 ③ スピードスプレーヤーによる薬剤散布は全列散布を行い、散布ムラのないようにする。園地周縁部等の薬剤のかかりにくいところは補正散布を行う。		
ハマキムシ類	量：並 程度：少発生 (被害果率 1～2%)	① 8月下旬の発生量(葉)は平年並。(±) ② 主要加害種リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップの累積誘殺数は、平年比少ない～多い(中越地区1地点)傾向。(－～＋) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
クワコナカイガラムシ	量：並 程度：少発生 (被害果率 1～2%)	① 8月下旬の発生量(被害果)は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
果樹カメムシ類	量：並～多い	① 8月下旬の発生量(被害果)は平年並。(±) ② 予察灯・フェロモントラップの累計誘殺数は、地点・種間差が大きく、平年並～多い(一部地点・種)。(±～＋) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--	-------

【もも】

せん孔細菌病	量：やや少ない 程度：中発生 (発病葉率 11～30%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
	【防除上の留意事項】 ① 夏型枝病斑発病枝や枯れ枝は早めにせん除し、発病果とともに園外に持ち出し適切に処分する。 ② 越冬伝染源量を下げするため、発生園では9月～10月中旬にかけて、おおむね2週間間隔で無機銅剤を2～3回散布する。 ③ 台風等で落葉した場合は、落葉痕からの感染が多くなるので、台風の接近や前線に伴う降雨の前に防除を実施する。	
モモハモグリガ	量：並 程度：少発生 (被害葉率 1～5%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 8月下旬までのフェロモントラップの誘殺数は平年比やや少ない～平年並。(－～±) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【ぶどう】

晩腐病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病果房率 1～10%)	① 8月下旬の発生は稀。(－) ② 梅雨時期降水量は少なく、感染を抑制したと推測される。(－) ③ 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
	【防除上の留意事項】 発病果粒は見つけ次第取り除き、二次感染の抑制を図る。	
べと病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率 1～10%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
	【防除上の留意事項】 ① 多発生すると早期落葉を引き起こし、樹勢が低下するとともに、落葉が翌年の伝染源となる。発生園では、収穫後も銅剤で定期的に防除を行う。 ② 発生園では落葉は放置せず、集めて土中に埋めるか、すき込むなどして翌年の伝染源量の低減を図る。	
褐斑病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率 1～10%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量： 平 年 比 発生程度： 発生時期： 平 年 比	予報の根拠
---------------	--	-------

【かき】

円星落葉病	量：並 程度：少発生 (発病葉率 1～10%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 発芽・展開後の天候は、全般的に高温・少雨傾向で推移し、感染を抑制したと推測される。(－) ③ 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
	【防除上の留意事項】 樹勢が低下すると発病を助長するので、適切な肥培管理を心がけ樹勢維持に努める。	
すす点病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病果率 1～5%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
チャノキロアザミウマ	量：並 程度：少発生 (被害果率 1～2%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
果樹カメムシ類	量：並～多い	① 8月下旬の被害果の発生量は平年並。(±) ② 予察灯・フェロモントラップの累計誘殺数は、地点・種間差が大きく、平年並～多い(一部地点・種)。(±～＋) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【だいこん】

モザイク病	量：並 程度：少発生 (発病株率 1～20%)	① 8月下旬の発生は未確認。(±) ② ウイルスを媒介するアブラムシ類の発生は平年並と予想される。(±)
べと病	量：並 程度：少発生 (発病度 1～15)	① 8月下旬の発生は未確認。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
黒斑細菌病	量：並 程度：少発生 (発病度 1～15)	① 前年の発生量は平年並で、伝染源量は平年並と推測される。(＋) ② 8月下旬の発生は未確認。(±) ③ 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
白さび病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病株率 1～20%)	① 前年の発生量は平年比やや少なく、伝染源量は平年比やや少ないと推測される。(－) ② 8月下旬の発生は未確認。(±) ③ 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
アブラムシ類	量：並 程度：少発生 (発生程度指数 1～50)	① 8月下旬の発生は未確認。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量： 平 年 比 発生程度： 発生時期： 平 年 比	予報の根拠
---------------	--	-------

【だいこん】 つづき

コナガ	量：並 程度：少発生 (寄生株率 1～10%)	① 8月下旬の発生は未確認。(±) ② 8月のフェロモントラップの誘殺数は平年比多い。(＋) ③ 向こう1か月の気温は平年比高く(－)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
-----	-------------------------------	---

【夏秋きゅうり】

べと病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率 1～25%)	① 8月下旬の発生は未確認で、発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
うどんこ病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率 1～25%) 【防除上の留意事項】 発生初期は発病葉をできるだけ除去する。	① 8月下旬の発生は未確認で、発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
褐斑病	量：並 程度：少発生 (発病葉率 1～5%)	① 8月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
アブラムシ類	量：並 程度：少発生 (一葉当たり寄生虫数 1～10頭)	① 8月下旬の発生は未確認で発生量は近年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ハダニ類	量：並 程度：少発生 (寄生葉率 1～2%)	① 8月下旬の発生は未確認で、発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温には高いと予想されている。(＋)
コナジラミ類	量：やや多い 程度：少発生 (成虫寄生葉率 1～30%)	① 8月下旬の発生は未確認で、発生量は近年比少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
アザミウマ類	量：並 程度：少発生 (寄生葉率 1～5%)	① 8月下旬の発生は未確認で、発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ハモグリバエ類	量：並 程度：少発生 (被害葉率 1～25%)	① 8月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)	量：やや多い 程度：少発生 (寄生株率 1～20%)	① 8月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--	-------

【秋冬ねぎ】

さび病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度 1～5)	① 8月下旬の発生は未確認で、発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(－)
黒斑病・葉枯病	量：並 程度：少発生 (発病度 1～20)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
軟腐病	量：並 程度：少発生 (発病株率 1～5%)	① 8月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
ネギハモグリバエ	量：並 程度：少発生 (被害度 1～10)	① 8月下旬の発生量は平年比少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
ネギアザミウマ	量：並 程度：多発生 (被害度 21～30)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
	【防除上の留意事項】 ① 薬剤防除は作用機構の同じ薬剤の連用は避け、作用機構の異なる薬剤をローテーション使用して抵抗性の発達を防ぐ。一部の薬剤に感受性低下が認められるので、最新の防除指針を参照する。 ② 収穫が近く発生が多い場合は、収穫 30 日前頃から 7～10 日間隔で 3～4 回薬剤散布する。なお、使用基準の収穫前日数に注意して、薬剤選定する。	
ネギコガ	量：並 程度：少発生 (被害株率 1～25%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
シロイチモジヨトウ	量：多い 程度：少発生 (被害株率 1～10%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや多い。(＋) ② フェロモントラップの誘殺数は、平年比やや多い。(＋) ③ 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。

【その他】

【野菜・花き類全般】 オオタバコガ	量：多い	① フェロモントラップの累計誘殺数は平年比多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
【大豆、果樹・野菜・花き類全般】 ハスモンヨトウ	量：やや多い	① フェロモントラップの累計誘殺数は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病虫害雑草防除指針」を参照してください ～

注１：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の５段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注２： 「予報の根拠」の、（＋）は発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因、（±）はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後７日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

【参考】北陸地方 1 か月予報（8 月 30 日から 9 月 29 日までの天候見通し）
（新潟地方気象台：令和 7 年 8 月 28 日発表）

＜向こう 1 か月の天候＞

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 8 0 %です。
週別の気温は、1 週目は、高い確率 8 0 %です。
2 週目は、高い確率 8 0 %です。
3 ～ 4 週目は、高い確率 5 0 %です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	1 0	1 0	8 0
降 水 量	4 0	3 0	3 0
日照時間	2 0	3 0	5 0

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
1 週目 （8 月 3 0 日～9 月 5 日）	1 0	1 0	8 0
2 週目 （9 月 6 日～9 月 1 2 日）	1 0	1 0	8 0
3 ～ 4 週目（9 月 1 3 日～9 月 2 6 日）	1 0	4 0	5 0